



短葉性ネギの新商品開発 並びに タマネギの新作型開発

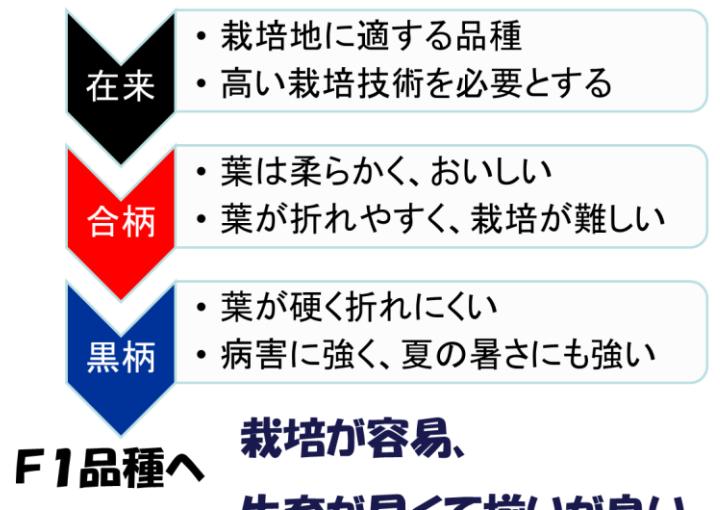
富山県農林水産総合技術センター園芸研究所

現 全国農業協同組合連合会 耕種総合対策部
生産振興・グリーン農業推進課

西 畑 秀 次

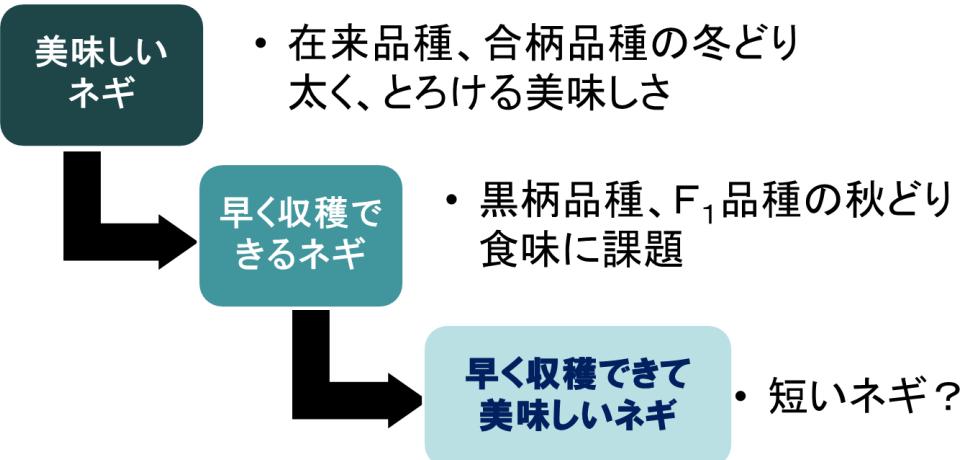
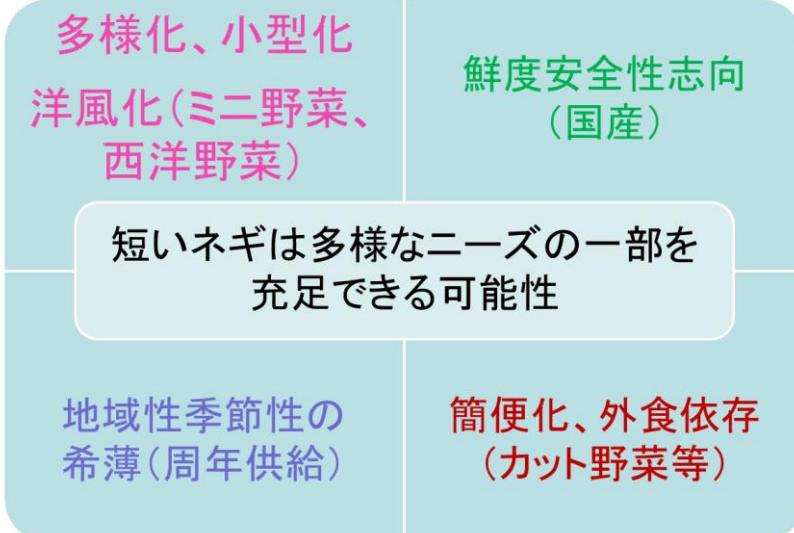
短葉性ネギの新商品開発

1990年代のネギ栽培品種の動向

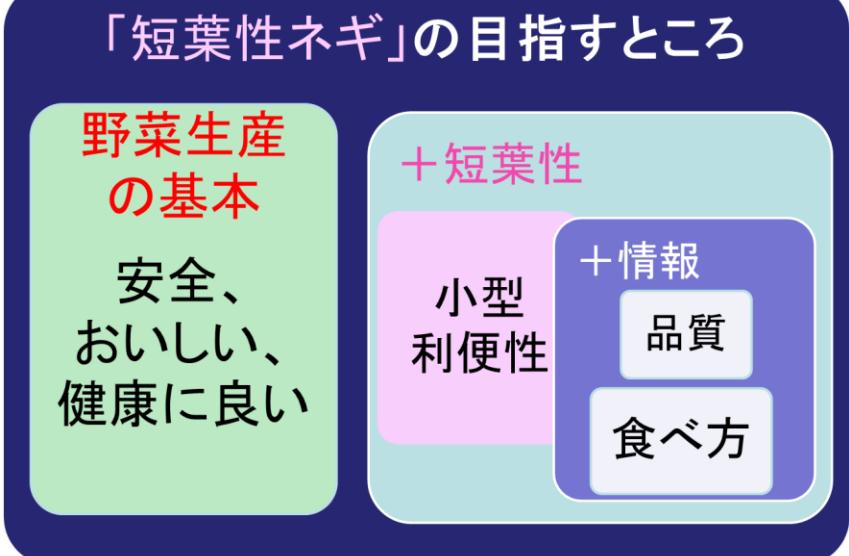


短い「ネギ」は売れるのか？

野菜消費構造の変化(中安、1996)より



グループインタビューから得られた商品コンセプト



2010年2月に品種登録

短葉性

加賀群

柔らかい

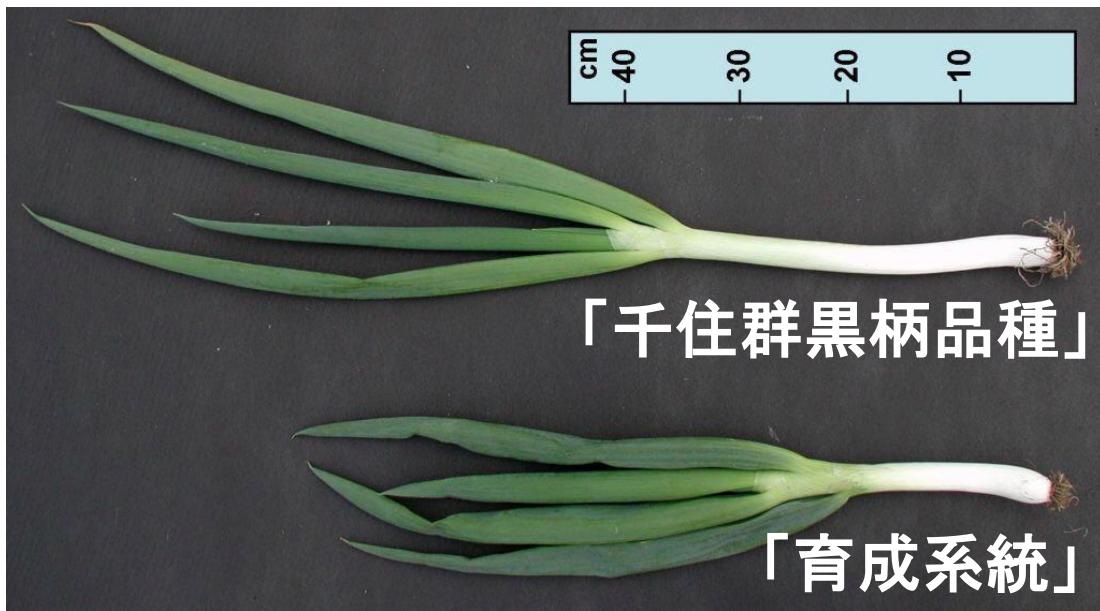
辛みが少なく美味しい

旺盛な生育

九条群

千住群

雑種強勢、短葉性等で選抜



短葉性ネギの新商品開発

販売計画に基づいた 計画的な生産

各市場の時期別需要量調査

生産計画作成 産地へ計画提示

生育状況調査と生育制御

葉鞘径と葉鞘長調査 管理による制御

産地の収穫量把握と各市場へ分荷



積極的なPR活動



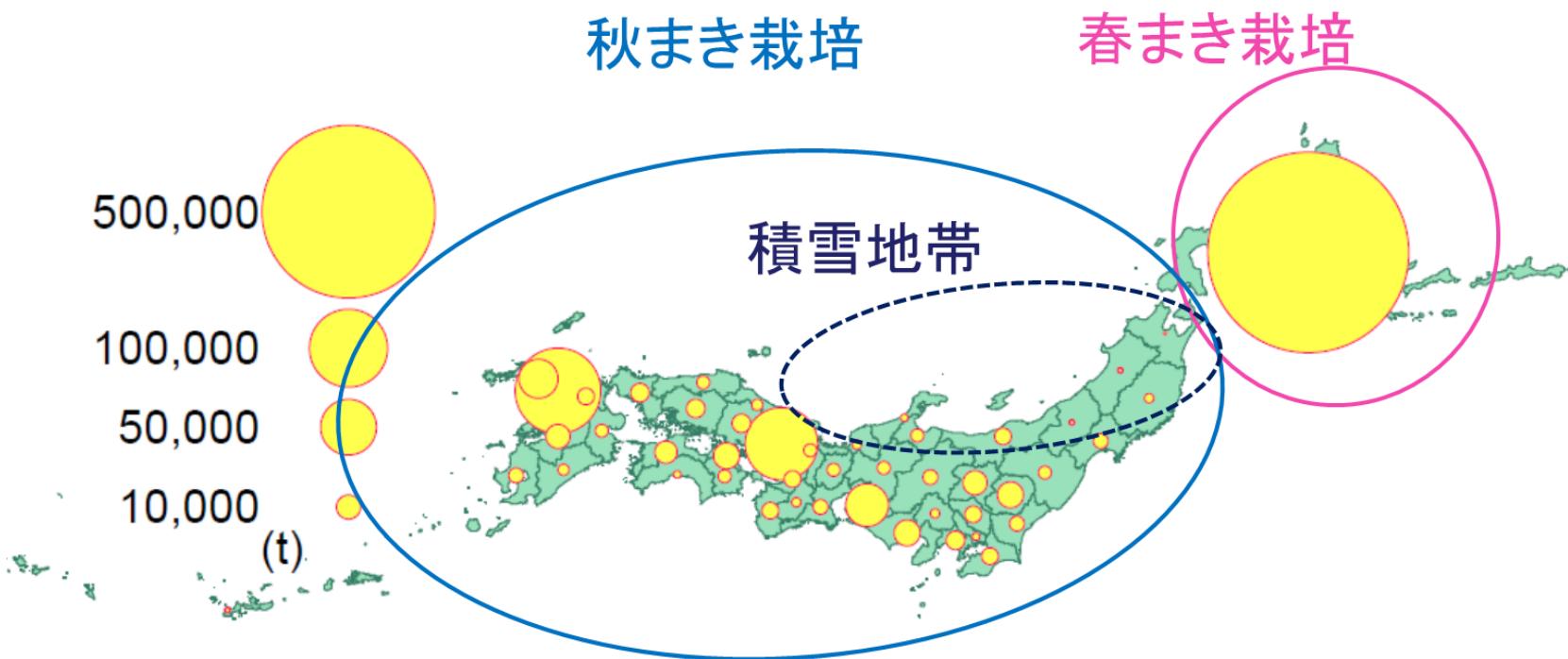
新たな市場確保



マーケティング、育種、栽培、販売 の連携した取り組みの結果

	20年	21年	26年
栽培面積(ha)	2.8	2.4	3.6
出荷量(t)	66.7	50.9	70.4
内首都圏出荷量(t)	0	13.6	52.6
販売金額(千円)	13,801	12,688	15,300
販売単価(円/kg)	207	249	217

タマネギの都道府県別生産量(H20)



1950～60年代の研究により、
北海道は「極晩生」品種による春まき栽培
東北以南は「早生～晩生」品種による秋まき栽培が定着

積雪地帯のタマネギ秋まき栽培



秋まき栽培の思い込み

定植後降雪までに生育確保



越冬率
向上

抽だい
分球
の発生

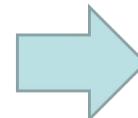
春まき栽培の思い込み

北海道の春まきは、春に播種し、夏を越して収穫する。気温が低い山の地へ…

標高600m、3月14日は種 6月4日定植 8月20日調査



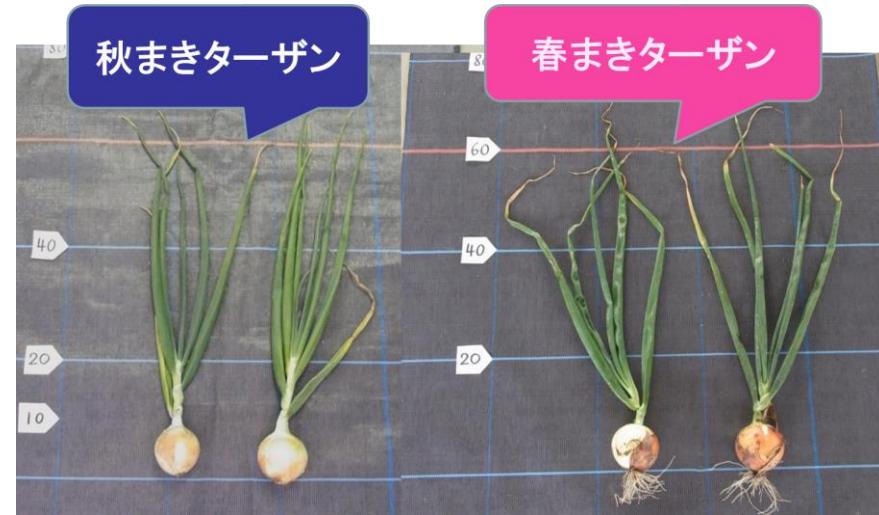
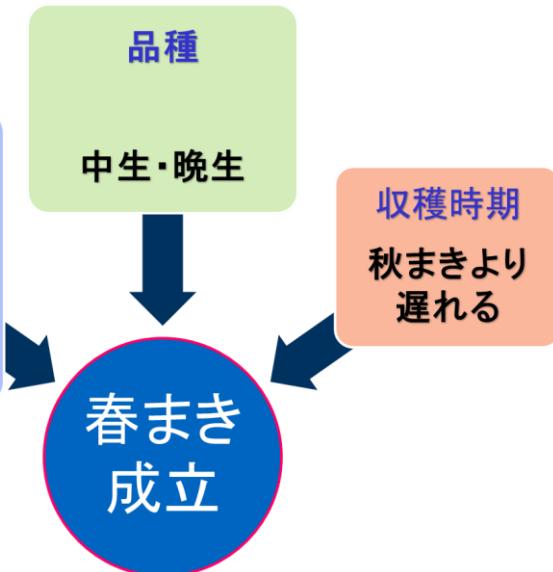
極晩生1 極晩生2 極晩生3
球径44mm



標高はもっと高い地
品種はもっと極晩生

タマネギの新作型開発

栽培
マルチ
もしくは
施肥方法



春まきと秋まきの組み合わせ

8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月



タマネギの新作型開発

表 タマネギの秋冬どり作型

2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
いわゆる セット栽培	播種	子球掘上 地干し 高温処理		貯蔵		下旬 子球 定植			11月 中旬 ～ 収穫		
育苗期 短日処理 (佐賀県)		上旬は種 本葉1.5～ 8/18まで 短日処理 (11時間以下)			下旬 定植				12月 上旬 ～ 収穫		



目的 自然条件下での育苗、1回の定植で秋冬に収穫できる作型の開発

タマネギの主要品種（山川, 1984）

品種群	玉肥大	代表品種
	日長時間	
極早生		
白タマネギ	12.0以下	愛知白
極早生		
黄タマネギ	12.0以下	貝塚早生早生系
早生		
黄タマネギ	12.5内外	貝塚早生晩生系
中生		
黄タマネギ	13.0内外	今井早生
晩生		
黄タマネギ	13.5内外	淡路中甲高
極晩生		
黄タマネギ	14.25内外	札幌黄

品種の熟期は、
「結球における限界日長」
だけでは説明できない…